

五しの里さじには魅力がいっぱい!

民泊で田舎ぐらしをまるごと体験

五しの里さじ地域協議会



「合併後、元気がなくなった」と耳にするようになった佐治町。しかし、やはり佐治には底力がありました。住民が一丸となって「元気なふるさと佐治」の実現を目指し、取り組んでいる様子取材しました。



会長
ふじわら としふみ
藤原 俊文 さん

五しの里、佐治町

鳥取市佐治町は、鳥取県の南東部に位置し、東は用瀬町、西は岡山県に隣接する人口 2,014 人、世帯数 789 世帯（平成 29 年 3 月現在）の中山間地。星空が美しく、おいしい空気と豊かな自然、昔ながらの温かい人情が今も残っています。また、日本を代表する公開天文台「さじアストロパーク」、日本三大銘石の「佐治川石」、二十世紀梨を主にした「梨」の産地としても知られ、古くから伝わる「佐治谷話」、「因

州和紙」など地域資源が豊富です。

平成 20 年に農林水産省の「農村漁村地域力発掘支援モデル事業」を受け、田舎ぐらしをテーマに体験と滞在型観光の推進を目的として、同年 7 月「五しの里さじ地域協議会」を設立。行政や農協、地元団体の 18 団体と民泊グループ（個人）32 世帯が構成団体となり、平成 21 年から活動をスタートしました。

魅力いっぱいの民泊と体験活動

同会の主な活動は、教育旅行としての民泊の受入です。現在は鳥取市の小学校の受入が全体の約8割を占めます。小学校と民泊先や体験内容を決めるなど、事務局が窓口となりコーディネートしています。

小学校の民泊は、1泊2日か2泊3日がほとんどです。民泊をしながら、日中はさまざまな体験活動に取り組みます。初日は、まず開講式をして午前中の体験活動場所へ移動。昼食後、夕方まで別の体験をします。その後、民泊家庭の方と対面して、それぞれの家に行きます。民泊家庭では、緊張した子どもたちを温かく受け入れます。子どもたちは初対面の家族と一緒に生活をとにします。食事づくりや風呂掃除などの手伝いもします。「手伝いも子どもたちにとっての貴重な体験です。お客さんじゃないですよ」ということは、子どもたちに最初に伝えていきます」と藤原さんは言います。翌日、朝食後に、各家庭が子どもたちを次の体験場所まで送り届けます。

民泊で一番気をつけているのは、子どもたちの安全面と健康面です。定期的な受入家庭を対象に、食品衛生講習会やアレルギー対策の研修、危機管理研修を実施するとともに、緊急連絡網を整備して迅速に対応できるように注意を払っています。

体験メニューは豊富です。「五し」を活かした体験や「どっぷり！農家体験」「食べ体験」「自然に癒され体験」「匠なりきり体験」「プレミアムさし体験」といった佐治の魅力が満喫できるメニューが約40もあります。

その中で、子どもたちに一番人気があるのは、「魚のつか

み取り」です。魚を獲るだけでなく、自分たちでさばき、焼いて食べます。木に登ってのこぎりで枝を切る「枝打ち」も人気です。最近では、山王滝でのシャワークライミングも人気です。教えるのは、全員、地元の人。「各構成団体が、自分たちの得意分野を活かして活動しています。佐治は人材も豊富ですよ！」と藤原さん。

民泊で子どもたちが変わった！

祖父母と一緒に住んだことがない子どもたちも多く、「田舎の家は大きいなー。おじいちゃんとおばあちゃんと話ができうれしかった」と感激します。受け入れる側も「子どもたちが来るとにぎやかで元気をもらう」ととても楽しみにしています。

「一番驚いたのは、ホテルを見たことがない子どもがいたこと。佐治ではごく当たり前のことが、子どもたちにとってはスペシャルなことです。梨の木を見るのも初めてだし、木に登って枝を切ることも新鮮です」と藤原さん。「民泊の家庭も、そんなに変わったことはしていないと思います。普段通りの生活をする中で、いろいろな話をしたり一緒に料理をしたり」と続けます。

子どもたちは、民泊を経験すると一回りも二回りも成長します。日頃できない活動を最後までやりとげる経験から「できた！」という自信を持ち、精神的にも安定します。また、佐治の自然や伝統文化に接し、自分の地域を見つめ直すきっかけにもなっています。そして、佐治の人と触れ合うことで、人の温かみや人と人とのつながりを実感し、あいさつや手伝いをおして感謝の気持ちが生まれ、自分の家族との関わりにも変化が生まれます。

「五し」ってなまに？

五しの里さじの「五し」とは、佐治地域の宝である「五つの〇」、「梨(なし)」「和紙(わし)」「話(はなし)」「石(いし)」「星(ほし)」のことです。

梨 なし



鳥取県の特産品「二十世紀梨」の産地

和紙 わし



書道家に愛され続ける因州和紙の産地。紙をすく音は、日本の音風景100選に選ばれています。

話 はなし



古くから五しの里さじに伝わる「佐治谷話」は、ユーモラスな民話(笑い話)です。

石 いし



日本三大銘石の一つ「佐治川石」。永い年月をかけて独自の地層と佐治川の急流により創られました。

星 ほし



日本を代表する公開天文台「鳥取市さじアストロパーク・佐治天文台」があります。

どっぷり！農家体験

- ★梨の袋かけ体験
- ★季節の農作業体験
- ★田舎暮らし体験 など

匠なりきり体験

- ★枝打ち・間伐・下刈り体験
- ★リース作り体験
- ★和紙のランプシェード作り体験 など

自然に癒され体験

- ★きのこづくりと森林浴体験
- ★魚のつかみ取り
- ★山王渓谷、滝の散策 など

プレミアムさし体験

- ★和紙の花づくり体験
- ★五右衛門風呂入浴体験
- ★佐治谷話の語り部体験
- ★郷土料理作り体験 など

食べ体験

- ★梨ジャム・梨飴づくり体験
- ★豆腐・こんにゃくづくり体験 など

星空体験

- ★夜間星空観望会
- ★プラネタリウム体験
- ★手づくり望遠鏡 など

佐治のファンを一人でも増やしたい！

「少子高齢化も人口減少も、もう止めることはできません。それを、誰かのせいにしたたり、行政のせいにしたたりするのではなく、佐治にいる自分たちががんばらないとね。会を中心に、いろいろな体験や民泊をどんどん展開して、町外、県外に向けて、佐治はこれだけ元気があるということを発信していきたいです」と力強く話す藤原さん。実際、平成21年から始めた小学校の民泊受入は、1校（55人）であったのが、平成28年度には25校（約1,200人）と、7年間で約20倍に増加しました。

最近、修学旅行で海外に行っていた学校が、国内の田舎に行く傾向へとシフト。来年には関西の中学校の受入も決まっています。受入家庭を確保するため、今後は河原や智頭など民泊を展開する他地域との連携も検討しています。「佐治で採れた食材で、佐治の名物をつくることや広報を強化することも課題です。今は、小学校の受入が主ですが、個人や家族にも来てほしいです。佐治のファンを一人でも増やしたい！」と藤原さんは意欲満々。

平成28年からは、新たに移住定住の取組も始まっています。五しの里さじの再生はそう遠くはなさそうです。



枝打ち体験



魚のつかみ取り



ミツバチの巣箱の観察



林業体験



佐治谷話の語り部体験



星空観察



民泊の様子

児童の感想

- とても緊張していたけど、やさしく接してくれたのでうれしかった。
- 梨の袋かけをしたり、モグラを見つけたり、普段の生活ではできないことができて楽しい思い出ができた。
- クローバーを摘みに行ったり、野菜を採りに行ったりして楽しかった。
- 一緒にトランプをしたり、ちまきを作ったり、ゲームをして楽しかった。
- いろいろなマナーやルールを教えてくれてうれしかった。
- 一緒にお弁当を作ったことが心に残った。

保護者の感想

- 2ヶ月前から準備をしていた。それぐらい楽しみだったのだろう。帰ってからもたくさんの思い出話を聞かせてくれた。
- とても楽しかったようで、自分の子どもころにもこのような体験をしたかった。
- 家で手伝いをしてくれることが増えた。
- 行く前は、不安に思っていたようだが、「楽しかった！」と言って帰ってきたので、行かせてよかったと思った。

教職員の感想

- どの民泊家庭の方も温かく子どもたちを受け入れてくださり、感謝しています。何よりも、子どもたちは佐治のみなさんのふる里を愛する心やわが子のように接してくださる温かさを、目いっぱい感じて帰ってきました。